

第34計；一流大学の学生は、独立志向が高い。(中華思想その6)

—メーテルリンクの“青い鳥”の童話をまず読むべきだ。—

中国の上位20大学に在籍する学生の1/3は“独立志向”を持っているようです。中国での受験戦争を勝ち抜いた人達であります。

彼らは、一般企業には絶対就職しようとしません。数学の世界学生大会で金メダルを取っている人もいるぐらいの優秀な若者です。

しかしながら、私は彼らには、“心の病気”があるとすら感じたことがあるのです。

私が彼らを見て思ったことは、“人間として偏(かたよ)りすぎている”ということです。わざと“阿保に”なることが出来ないからであります。メーテルリンクの“青い鳥”の童話をまず読み、「幸せとは何か」を考えるべきであるとアドバイスしたいのです。

現実的には、日本の大学受験のセンター試験を受けたらよいと思います。留学生枠ではなく、(留学生枠でいくら東大医学部に入学しても、日本の場合医師国家試験は受けられない)あくまで日本人の学生と同一条件で日本人の学生が受験する統一センター試験をまず受験し、日本の大学の医学部に合格した上で、日本の医師国家試験に合格すれば日本国の医師になれるのであります。このことは、日

本の医師不足解消に役立つと思われます。私が“阿保”なる方法を教えます。まず日本語検定一級を合格し、日本の童謡で日本語の話し方のリズムを身に着け、世界の童話を日本語で読み、三か月間お寺で座禅の修行し、“詫び”・“寂び”の日本人の心を身につければ、“素晴らしい医者”が誕生すると思います。私は洛陽にある中国随一の仏教寺院“白馬寺”の館長とも面識があり、京都・嵐山の天竜寺第4位の若き僧侶を白馬寺に連れて行ったことがあります。彼は厦門大学に留学し中国語も話せるので、座禅の紹介はいつでもできるのであります。

中国には「一人であれば“龍”である。二人集まると“豚”になる。三人集まれば“虫”になる」という諺があります。“デモ”できるまで集まると一体中国語でなんというのでしょうか？

“デモ”は、中国政府にとっても頭が痛い問題であると思われます。中国情報部がいくらインターネットで情報遮断しても携帯電話網まで遮断できなかつたのです。私は中国の“反日教育”は日本の諺の“上を向いて唾を吐く”ようなものと判断しています。貴州省にいる中国の知人に電話をすると、携帯電話で反日デモ参加の呼びかけが頻繁にあるので困っていると言っていました。予想とおりで

あります。(重慶の南隣が貴州省である。知人は日本語が話せる大阪教育大学を卒業している。貴州省は中国で一番貧しい州で前漢時代は“夜郎国”で少数民族も多い。まるで現在の反日デモはサーズ発生の際の時のようだ。)

話しを本論に戻し、私の希望・構想を述べさせて戴きます。

中国政府が日本の医師不足の現状を早く知り、日本政府と話し合い“中国人が日本での医師免許を取得する仕組み”を作れば中国学生の過激なデモは少なくなると思うのであります。

私は、ある“老人と若者の交流”また“高齢者等社会的弱者の生きがい創り”に努力している財団法人(私の妻が理事を務める)を通じて実現を目指したいと希望するのであります。

最近日本の若者の留学生が減っていると聞きます。一方、中国は若者の留学生が世界一になっています。統計学的に言えば、国別の「若者の留学生の数」が、その国に於ける未来の“国力バロメーター”の一つであるといえるのであります。

2010/10/24